

令和4年度 鶴岡市郷土資料館運営委員会 会議録

○日 時 令和5年3月16日(木) 14:00～

○会 場 鶴岡市立図書館本館 講座室

○出席委員 阿部博行委員 渡部 幸委員 齋藤和久委員 本間 豊委員  
佐々木勝夫委員 升川繁敏委員 黒羽根洋司委員 森木美穂委員

○職員 館長：武田綾子 館長補佐：今野 章  
図書主査：齋藤剛志 社会教育課文化主幹：五十嵐恭子

○公開・非公開の別 公開

○傍聴者の人数 0人

1. 開会
2. 館長挨拶
3. 報告・協議
  - (1) 令和3年度及び令和4年度上半期郷土資料館運営報告について
  - (2) 令和4年度郷土資料館運営方針について

〈協議内容〉

**委員長**：寄託資料のうち、インドネシア独立関係資料とは阿部頌二・吉住留五郎のことか。

**事務局**：領事館に勤めていた人が収集したもので、図書や収容所の現在の写真などである。

**委員**：寄贈寄託資料のうち、手向村 尾上吉太郎日記(40冊くらいある)の内容とは。

**事務局**：明治20年代から昭和20年代までの日記となる。

**委員**：慣れたスタッフでないと、資料の整理は難しい。その人たちを育てるための雇用方法はないか？

**館長**：会計年度職員は、単年度雇用で2回更新できる。資料館で働きたい方には継続して働けるよう、職員課にはお願いしている。ただ、同じ人ばかり雇用すると、クレームが入る恐れもあり、毎年、ハローワークに募集を出している。

**委員**：資料へのアクセスが難しいので、使う人にやさしいシステムが必要である。

**事務局**：レファレンスツールはあるものの、その見直しまでは手が回らない状態である。

**委員**：古文書は劣化防止のため、コピー禁止で写真のみだと思うが、一般図書についての写真撮影は禁止となっている。これは著作権の関係か。

**事務局**：厳密に言えば著作権では明記されていないため、内規により図書館資料に撮影は禁止にしている。

**委員**：相談件数では口頭が多いが質問の類か。ずばり答えでなく、文献を教えることもあるのか。

**事務局**：それぞれで対応している。郷土史に関する質問もあるが、古文書の解読を依頼されることもレファレンスに含めている。それから、質問事項について、わからないということも回答になるので、わからなければ、わからない根拠となる史料を提示している。

**委員**：相談件数についてコロナ禍の影響で減少がみられるか。

**事務局**：ひと昔前と違って、さまざまなことがスマホで調べられるので、全体的に質問の数は減っているように思われる。

**委員長**：郷土資料館では、毎年新しい資料を受け入れているので、2年に1回でもいいので、一般公開してもいいのではないか。

**事務局**：展示での公開で手一杯である。受け入れた資料はすぐに整理を施せる状態ではあるが、一般公開するとなると時間がかかる。

**委員長**：紙資料ではなく、モノ資料を寄贈したいという人もいるのか。

**事務局**：基本、モノ資料は受け入れないことにしているが、長持を本日頂いた。

**委員**：収蔵庫のキャパの問題がある。有識者に、何でも寄贈を受けていいのかと言われる。パンクしてしまうと。だから、寄贈を望む方には、何回ももらっていいのかと念押ししている。

**事務局**：紙資料である古文書は、後々だれがどう研究するかわからないので、すべて受け入れて整理している。物品も要らなければ捨てるといわれると、なかなか断れない。

**委員**：資料館では小学校などでワークショップを開き、郷土資料の価値がわかるようにする活動が必要ではないか。古文書の紙の質やくずし字に触るなど、若い年代を巻き込める取り組みが必要だ。それが、郷土愛を育て、文化的な素養となる。

**文化主幹**：入部400年記念事業の一環で、社会教育課では出前授業を行った。

**館長**：図書館では、小学生の司書体験講座を行い、閉架等バックヤードに触れてもらったり、貸出処理をしてもらったり、大変好評だった。たとえば、同じような学芸員講座ができるかどうか検討したい。

**委員**：子供に現物を触ってもらうことは大切である。授業で1回でもいいので、それが出来るのであれば違うと思う。学校側でも検討できないか。

**委員**：学校に出向いてくれるスタッフが必要。動ける人が1人でもいれば、スムーズに対応できる。

**委員**：短時間パートでいいので、学校関係を専門にする人を雇えばいいのではないか。

**委員**：古文書に関心のある人がいるので、ボランティアに任せるとかできないだろうか。

**館長**：これ以上の人員増は難しい。ボランティアは育てるのが大変である。

**委員**：今のスタッフで、期間限定でもいいので、学校での授業のようなことが出来ないか。深い説明は求めないので。

**館長**：令和4年度には子ども向けの歴史講座を開催したという経緯があり、そういった機会では体験できないかと考えている。

**委員**：試行錯誤しながら、何かしていかないと机上の話から先に進まない。

**委員**：教育委員会で連携してできないか。

**文化主幹**：子供文化クラブでお茶やダンスの出前講座を授業で実施している。

**委員**：子供の体験格差が問題となっている。それが大学入試にまで影響してくるので、平等に体験できる機会が必要。

**委員**：学校司書の会などを巻き込んで、実施できないか。まずやってみたらどうか。

**館長**：学校図書主任会ご案内したい。

**委員**：図書館は建物として限界なのでは、しっかりした図書館を立てるべき。Wi-Fi すらない。ちゃんと利用者のことを考えてほしい。

**館長**：Wi-Fi の取り付けは他の施設との順番待ち。図書館の建て替えについては、来年度、エレベーター更新工事を行う予定でもあり、それを踏まえると、早急な建て替えはないと考える。新館構想を館内で検討している段階であり、今後、皆様方からご意見を頂戴していきたい。

**委員**：新築された酒田市立図書館は、駐車場は広く、ホテルやレストランと一緒に、午後9時まで開館している。学生が勉強で利用するスペースも広い。図書館として、学ぶところがあるのではないか。

**委員長**：コロナ禍対応がだいぶ緩和されてきたが、新聞コーナーは今のまま2階に置くのか。

**館長**：マスク着用は自己判断となったものの、消毒したり密を避ける必要性があることから、いきなり、コロナ禍前に戻したりはしない。

**委員**：コロナ禍も終息し、外国からの研究者も来るようになった。鶴岡市全体のこととして、外国から来られた方々への歴史ボランティアガイドが必要ではないか。外国語はスマホで何とかできるが、歴史が分からないとガイドは難しい。対応できる人がいなくて、右往左往している。今後、そういった人材が必要になってくるかと思われる。